



(多機能性人工エキソソーム(iTEX)医薬品化実践を通じた操薬人育成事業)
(創薬人育成のための創薬実践道場教育構築事業)

講演会のお知らせ

「食品安全のための レギュラトリーサイエンス」

講師：登田 美桜 先生

国立医薬品食品衛生研究所
安全情報部 室長

**日時：平成30年1月12日(金)
8:45~9:45**

場所：薬学部2階 第1講義室

食品を“安全に”食べるということは私達が健康に生きるために重要なことである。それを支える食品安全行政の措置は、リスク分析(リスク管理・リスク評価・リスクコミュニケーション)の枠組みで科学的根拠に基づかなければならないとされるため、食品安全に関係するさまざまな問題について科学的な研究が行われている。その研究対象の範囲は非常に幅広く、携わる研究者のバックグラウンドも多岐にわたる。

本講演では、食品安全のレギュラトリーサイエンスの概要を説明し、消費者への注意喚起に繋げた研究の一例として、有毒植物による食中毒に関する調査研究をご紹介します。

なお、本講演会は「製剤学2」の講義を兼ねます。

連絡先：製剤分子設計学分野 奥平 桂一郎
TEL：088-633-9546 (内線9546)



(多機能性人工エキソソーム(iTEX)医薬品化実践を通じた操薬人育成事業)
(創薬人育成のための創薬実践道場教育構築事業)

講演会のお知らせ

「化学物質の安全性のための レギュラトリーサイエンス」

講師：諫田 泰成 先生

国立医薬品食品衛生研究所
薬理部 部長

日時：平成30年1月12日(金)
9:45~10:45

場所：薬学部2階 第1講義室

近年、自閉症など発達障害が急速に増加し、大きな社会問題となっている。その原因の一つに発達期における化学物質の曝露があげられており、発達期の神経系は成体と比較して化学物質に対する感受性が高く、健康被害が長期間あるいは遅発性に生じることが考えられる。現在、OECD（経済協力開発機構）などにおいて、妊娠ラットを用いる発達神経毒性試験ガイドラインが制定されているが、試験方法が複雑で時間やコストもかかること、多数の実験動物も必要であることなどから、現在までわずかの化学物質しか安全性を評価できていない。本講演では、ヒトiPS細胞技術を活用したin vitro発達神経毒性評価法の開発と国際動向をご紹介したい。これはまさに化学物質の安全性のためのレギュラトリーサイエンス研究であり、新たなin vitro神経毒性試験ガイドラインが期待される。

なお、本講演会は「製剤学2」の講義を兼ねます。

連絡先：製剤分子設計学分野 奥平 桂一郎
TEL：088-633-9546（内線9546）